



FileMaker と Microsoft Access:

特定の評価基準による製品比較

ご自分のニーズに最も合うデータベースはどれかをご検討中ですか? あるいは、Microsoft® Access と FileMaker® ソフトウェアとの違いはなんだろうかと思ったことがおありですか? 下記は、サードパーティの批評家がデータベース製品を評価するときに使用する評価基準による製品比較です。これをご覧になれば、なぜ FileMaker が世界の代表的な“使いやすい”データベースで、専門家から贈られる数々の賞を受賞しているのか、おわかりいただけるでしょう。

評価基準	FileMaker	Microsoft Access
使い始めるときの簡単さ	覚えるのが簡単 あらかじめ組み込まれた数多くのデータベーステンプレート、レイアウトテーマ、そして直感的に操作できるグラフィカルインターフェースによって、初めてでも、すぐ使いはじめられます。各種プラットフォームに簡単に最適化できる、包括的なソリューションの作成が可能です。	データベースの経験が必要 ユーザインターフェースが複雑で、データベースの表示形式が組み込まれていないため、初めてのユーザは使いはじめから難しさに直面します。通常のデータベースと Web データベースのテンプレートが分かれているので、ソリューションが断片的で、データベースの機能が限定されます。
情報の検索や閲覧の簡単さ	自動的に表示形式を作成 すべての情報に、テーブル、リスト、フォームが自動的に作られます。データベースのレコードに関連付けられた Web ページをライブで閲覧できます。データが変更されると Web ページも更新されます。	手動で表示形式を作成 情報を閲覧するときの表示形式を手動で作成しなくてはなりません。データの検索には、クエリのシステムに精した知識が必要です。
スクリプトやプログラムの作成	選んでクリックするだけでスクリプトを作成 130 を超えるスクリプトステップから選んでクリックするだけのスクリプト言語のおかげで、どんなタスクも簡単に自動化できます。プログラミングの専門知識は不要です。	プログラミングの知識が必要 データベースのタスクのいくつかは 56 のマクロから選択して実行することもできますが、多くのソリューションでは、もっと複雑なプログラミング言語である Visual Basic を使用する必要があります。
カスタマイズ	カスタマイズが簡単 フィールド、レイアウト、レポート、メニュー*の変更が、ツールバーからわずか数クリックで簡単にできます。	カスタマイズには高いレベルの経験/知識が必要 多くの選択肢やクリック経路があるので、使いこなすには事前の経験が必要です。広範囲にわたるカスタマイズには Visual Basic の知識が要求されます。
レポートング	ドラッグ&ドロップでレポートング ドラッグ&ドロップで使えるレポートングツールが、さまざまなカスタムレポートの作成に役立ちます。グラフのコンポーネントとデザインをカスタマイズすることもできます。インスタントWeb公開を利用すれば、Web 上でレポートを共有して閲覧することも可能です。	手動でデザインするインターフェース ウィザードを使って簡単なレポートを作成できますが、変更するには高度なデザインインターフェースを使う必要があります。グラフはウィザードのオプションに限られ、それ以上カスタマイズできません。Microsoft のクラウドコンピューティングプラットフォームである Office 365上で SharePoint に公開する場合には、レポートはサポートされません。
データベースの容量	8 テラバイトの容量 ひとつのデータベースあたりの容量制限は、8テラバイトです。**フィールドには、2GBのデータを格納することができます。	2 ギガバイトの容量 ひとつのデータベースあたりの容量制限は、2GBです。テキストフィールドは 255 文字、複数行フィールドは 65,535 文字を格納できます。
スケーラビリティ(拡張性)	個人から大規模なワークグループまでサポート FileMaker Pro は最大 9 の同時接続クライアントをサポートします。FileMaker Server Advanced を追加すれば、何百もの FileMaker Pro クライアントが同時接続できます。***	小規模なワークグループをサポート 20 以上のユーザがいると、最適なパフォーマンスを得られません。Access サーバーはありません。
Web 公開	Web 公開機能を統合 FileMaker Pro を使って、データベース・ソリューション全体を、ワンクリックで Web に公開できます。追加のソフトウェアは必要ありません。ビルトインのセキュリティ機能で、ユーザに読み込み/書き込みのフルアクセス 権を許可した共有が可能です。	Web 公開にはサーバーが必要 フォームとレポートをWeb上で共有できますが、Microsoft SharePoint Server 2010 または Office 365 のアカウントがあるときだけ利用できる公開機能が必要です。セキュリティ関連の許可は、SharePoint 内から管理しなければなりません。
セキュリティ	フィールドレベルのアクセス権限 柔軟なセキュリティ設定が可能なので、データベース全体、またはデータベース内の特定のレイアウトやフィールド単位で、ユーザのアクセス制限をおこなえます。	データベースレベルのアクセス権限 データベース単位でのアクセス制限しかできません。より細部にわたるセキュリティはサポートされていません。
プラットフォーム	iOS、Windows、Mac で使える iPad、iPhone、Windows そして Mac ユーザー間でデータベースを共有できます。	Windows 上でしか使えない Windows でのみ動作します。

これは、FileMaker 12 と Microsoft Access 2010 をもとにした製品比較です。

*メニューのカスタマイズは、FileMaker Pro 12 Advanced でご利用できます。

**容量は、FileMaker アーキテクチャで課された限度を表しています。実際の使用限度は、ディスクスペースや RAM、OS のリソース制限など、他の要素によって変動します。

***FileMaker Server 12 Advancedテクノロジでは、FileMaker Pro クライアントの数は無制限です。ハードウェアとオペレーティングシステムによってのみ、技術的な限界が決まります。